

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第7回「緑をつくる」施策を検討する部会 会議録	
日 時	平成27年3月5日(木) 18時から20時まで
開 催 場 所	関内中央ビル 3B協議室
出 席 者	池邊部会長、池田委員、長瀬委員、若林委員
欠 席 者	相原委員
開 催 形 態	公開(傍聴0人)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会長の選任について 2 横浜みどりアップ計画「緑をつくる」施策の評価・提案について 3 その他
議 事	<p>(開会)</p> <p>(事務局) (部会員の紹介、会議の進行について説明、資料の確認)</p> <p>議題1 部会長の選任について</p> <p>(事務局) 部会長の選任ですが、横浜みどりアップ計画市民推進会議設置要綱第6条第3項の規定により、部会に部会長を置き、部会長は部会の委員及び専門委員の互選によって定めることとなります。</p> <p>どなたか、立候補を含め、御提案はございませんでしょうか。</p> <p>(長瀬委員) 昨年度までの部会の部会長が池邊先生でいらしたとのことで、大学で教鞭を取られている専門家でいらっしゃいます、池邊先生が適任だと思います。</p> <p>(事務局) 池邊委員に、とのご意見がありましたがいかがでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声あり)</p> <p>(事務局) それでは、池邊委員に部会長をお願いいたします。一言御挨拶いただきまして、ここから議事進行を池邊部会長にお願い申し上げます。</p> <p>(池邊部会長) 皆様、はじめまして。池邊でございます。今般は御推薦いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>横浜みどりアップ計画は、私も25年度までの計画から携わらせていただいているのですが、3部会の中で「農地を守る」とか「樹林地を守る」というのは取組が割とわかりやすい。一方で、より市民に身近な「緑をつくる」取組が見えにくい時期がありました。本当は割と小さな予算でも、いろいろな街角でできる取組なのですが、見えにくい。「緑をつくる」部会は何をやっているのだと、皆さんからいただいているみどり税を、こんなに横浜がきれいになった、こんなに緑が豊かになったと実感できるのは町の緑ではないかというお話もいただいたりしてきましたことも踏まえて、今後とも皆さんの力をお借りしながらやっていきたいと思っておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきます。</p> <p>議題2 横浜みどりアップ計画「緑をつくる」施策の評価・提案について</p>

	<p>(事務局) (資料1について説明)</p> <p>(池邊部会長) いかがでしょう。構成についての御質問はよろしいですか。それでは、引き続き内容の説明をお願いします。</p>
	<p>(事務局) (施策1について資料2及び参考資料に基づき説明)</p> <p>(池邊部会長) ありがとうございました。</p> <p>施策1について、皆さん、配布されたパンフレットや、御報告がありましたそれぞれの件数などを見て、こんな制度があったのかとか、あるいはこんなに進んでいるのかという部分と、逆に、最初の民有地緑化の助成などは、500万という大きな額がありながらなかなか進まないということは難しいのだなど、いろいろな感想をお持ちだと思うのですけれども、今回、皆さんの御意見をいただいて、今年度の報告書に載せるということで、感想でも、御質問でも結構ですし、施策の結果を見ての御意見をいただきたいと思います。いかがですか。</p>
	<p>(若林委員) 印象的には、公共の緑化は順調に進んでいるけれども、民間の方がちょっと動きがもう一つなのかなという気はしますね。</p> <p>あと、苗木の配布というのは、差し上げて、その後どのようにされているのですか。フォローアップはされているのですか。</p>
	<p>(事務局) フォローアップはしていないのですが、基本的には庭木として植えられるようなものをお配りしていますので、庭に植えていただいているのかなと思っております。</p>
	<p>(若林委員) マンションの場合は。</p>
	<p>(事務局) そういうところにはどちらかというと小さな苗木を差し上げております。</p>
	<p>(若林委員) なるほど。鉢植えにできるような樹種ということですか。</p>
	<p>(事務局) 樹種は大体10種類ありまして、マンションの方ですとドウダンツツジですとか低木の苗木を選んでいただいています。</p>
	<p>(若林委員) 緑化保全契約の締結については目標の数値があるのでしょうか。</p>
	<p>(事務局) 目標数値はないです。</p>
	<p>(池田委員) 建築物の緑化保全契約について、私の住んでいるマンションは平成25年度までのみどりアップ計画の期間中にこの保全契約を締結して助成をいただいています。また、名木古木の保存についても、マンションのシンボルのヤマモモを指定して頂いています。</p> <p>先ほどの民有地緑化助成について、100万円、500万円もの助成をするということで、市の方は一生懸命PRしているということですが、知らない人が多いから利用されていないのだと思われま。せっきくい取組なのだから、機会があるごとにどんどんPRしていくとよろしいと思いますね。</p>
	<p>(事務局) 「広報よこはま」ですとか、あるいはホームページもありますし、建築物に関係しているので、関連団体、設計士さんの団体などにも行きまして宣伝させていただいたり、リーフレットを作って配布する、などいろいろPRしているのですが、なかなか周知が徹底していないところですので、引き続きPRしたいと思います。</p>
	<p>(池田委員) また、緑の少ない区に西区が入ることが意外です。西区にはみなとみらい地区がありますね。あそこは確かに高層ビルはあるけれども、空間は結構緑化されているというイメージがあります。緑が少ないというのは人口に対しての面積ということでしょうか。</p>
	<p>(事務局) みなとみらいはもともと計画的につくった町ですので、緑の割合としてはあるのですけれども、建物のボリューム感が圧倒</p>

	<p>的にあるので、みなとみらいに緑が少ない少ないと各方面から言われています。より一層、実感できる緑、効果的な緑を増やしていきたいということで取り組んでいます。</p> <p>(池田委員) 今度、横浜で都市緑化フェアが開催されるということになると、みなとみらい地区は会場となってもっときれいに花で埋めるといこともお聞きしています。横浜に住んでいない人から見ると、横浜というとみなとみらい地区が一番目立つ所なので、緑とか花とかで飾るとイメージが上がります。</p> <p>一方、住んでいる者から見ると、横浜は横山だよとお笑いタレントが言っていましたけれども、私など戸塚の奥に住んでいる人間にとって見ると横浜は山ばかりなのです。山があるということは、目の前の緑が見渡せるので、緑が少ないとは感じないのですが、そういう山の緑は触れ合うこともできないし、季節感を感じるかというところでもないですね。</p> <p>(池邊部会長) 長瀬委員はいかがですか。</p> <p>(長瀬委員) 今の話の流れから外れてしまうのですが、街路樹は土木事務所との兼ね合いがあるかなと思っていますが、この街路樹づくりというのは、横浜市の土地での街路樹づくりということですね。</p> <p>(事務局) はい。基本的には横浜市の所有している道路の中に植わっているものが街路樹です。</p> <p>(長瀬委員) 土木事務所とも連携しているのですね。</p> <p>(事務局) 基本的に街路樹の維持管理は土木事務所で行っております。ベースとなる街路樹管理に、より市民の方の目に触れるところですとか、中心市街地の街路樹については、さらに上乘せをする形で管理の頻度を上げて、良いものにしていこうとしています。</p> <p>(池田委員) 取組の趣旨はよくわかるのですが、どこの部分に通常よりも上乘せしてやっているのか伺いたくなります。この路線は今までは年に1回の草刈りで草が茂り放題だったけれども、みどり税で上乘せしてこれだけきれいになりました、という形で示されたらわかるのですが、18区全部満遍なく取り組んでいますと言われると、確かにやっているのですが、市民にとっては全然効果を感じられない。</p> <p>逆に、ここの路線はみどり税で上乘せしていますからきれいになったところを発表でもすれば実感できるかと思うのですが、街路樹の整備をして、事例紹介にあったように単独マスを連続マスにして、ツツジなどが咲いているときはいいのだけれども、どんどん草が茂って、逆に汚いものになってしまうという場合がある。</p> <p>報告書に載せる写真はきれいな写真を選ぶのが当たり前なのですが、報告書を見てそこに行ったときに、ツツジが枯れてしまっていたり、雑草が茂っていたりすると、管理に上乘せしていてもこの程度かという話になってしまいます。</p> <p>私も仕事で街路樹の管理は経験があり、お金が幾らあっても足りないということはわかります。通常管理費に上乘せとか耳にいい言葉ですが、実際にその効果を感じられるような、仕事をしてもらいたいと思います。</p> <p>逆に、お金が出ているのだからしっかりやれよと土木事務所に対して言っていたきたいですね。自分のマンションの周りの街路樹の雑草がひどく茂っていて草刈を土木事務所に頼んでも、お金がないからできませんと言われる。お金がなければできないということを知っているから、それで済ませてしまいますけれどもね。</p> <p>(池邊部会長) 長瀬委員、街路樹以外にはいかがですか。</p>
--	---

(長瀬委員) 西区横浜市民ギャラリーと市庁舎の前、みなとみらいは実際に見に行ったのですが、目に入る部分で、みどり税を使っているのだとか、管理しているのだなどということが伝わってきました。そういう所にも、確かみどり税を使っていますというプレートが出ていたので、みどり税が緑に還元されているのだという実感がありました。そういう実感が街なかであると嬉しいですね。

コンクリートの街なかに緑がつくられている変化を見るとほっとします。ぜひ広げていってほしいし、私もそこで何ができるかと思っています。広報も大事だけれども、自分が知り合いに伝えていくということも大事にしたいと思っています。みどり税のプレートは小さいけれども、あればこれを見てということも言えます。逆に大きすぎてもどうかと思います。

(池邊部会長) みどりアップ計画でやっていますという看板ですね。

(事務局) これぐらいですね。(プレート掲示)

(長瀬委員) せっかく市民推進会議に入れていただいたので、自分も周りと共有していきたいと考えています。

(池田委員) 資料の写真も、ビフォー・アフターのように、前はこんなに汚かったけれどもみどり税を使ってこんなにきれいに緑化したということを示す写真にして、積極的にアピールしたほうがいいのではないですかね。

(長瀬委員) 市庁舎の前は、以前の施設を知っていたので、コンクリだった所が緑化されたということがわかり、緑が増えた実感があつたかなと思います。

(池田委員) 前は何もなかったのにこんなにきれいに緑化されたという実感ですね。

ただ、緑化してきれいになった後、維持管理ができなくてやはり汚いではないかという話になってしまうと良くないですね。

(長瀬委員) そうですね。緑を創出した後、どう継続していくかという難しさはあると思います。民有地の緑化助成も、緑地を創出した後の継続をフォローすれば、今後もう少し申込が出てくるのではないかと思います。

(池邊部会長) そうですね。緑の維持管理を重視している市町村は本当に少なく、大概創出する整備費だけで終わってしまっているのです。どの市町村でも今、街路樹などの維持管理費が削られてきて、ひどい所ですと一番多い時の3分の1以下ぐらいになってしまっています。それで3年に1度ぐらい極端に切って、棒のような形状の全く樹冠がない街路樹という状態になってしまっています。東京都を始め、それを見直そうとしている自治体が、多くなっている状況にはあります。

ただ、先ほど、池田委員がおっしゃられたように、維持管理の取組については、通常管理と、みどりアップをプラスしたときの管理との違いがなかなか見せにくいということです。資料にある壁面緑化や屋上緑化のように新しくつくるところは非常にわかりやすいのですが、街路樹については通常管理の部分とどう違うのかという部分がなかなかわかりにくいので、やっているというアピールとともに、やったときにきれいになったというビフォー・アフターをもっと誇ってもいいのかなと思います。

他にはいかがでしょうか。施策1についてはそれぐらいでよろしいですか。

では、また何か途中で気がつきましたらお声掛けください、施策2についてお願いいたします。

(事務局) (施策2について資料2及び参考資料に基づき説明)
(池邊部会長) ありがとうございました。

施策2の、地域緑のまちづくりについてですが、緑というのはコミュニティーのつながりを強くしたり、再生したりとさまざまな力を持っていると思います。今日の資料を見て、驚いたのは、柿の木台の地区で、堆肥づくりから始まって、当地由来の禅寺丸柿の500本の植樹をしたり、緑化コンクールまで実施したりということで、非常に積極的な内容が伝わってきました。千葉大の園芸学部にも、ひとり住まいで庭の手入れができない高齢者のお宅に伺うというサークルがあるのですが、今回、こういう方への緑化援助というものもあって、非常にきめの細かい取組がそれぞれの地区でされているという感想を持ちました。

25年度までのみどりアップ計画の園庭の芝生化では、保育園と幼稚園だけだと、園長先生が同意してもPTAの方がなかなか同意していただけないとか、進みにくい点もありました。今回、緑の創出事業という取組になって、メニューも多様になり、維持管理の方にも指導やお金の支援があるということで、非常に推進しやすいシステムになったなと思っています。

都心臨海部の緑花については、池田委員がおっしゃったように、一見緑が多いというか、横浜の象徴的な場所なのですけれども、その部分をいかにこれから緑花による賑わいづくりをしていくかという話だったと思います。

(池田委員) それでは、皆様から御意見をいただきたいと思います。
緑の推進団体で、各区から動員して、横浜公園のチューリップの球根植えをやらせていただいています。皆さん、ボランティアなのですが、自分が植えたものだから、咲いたときには近所からみんなで見に行ったり、お年寄りが多いのだけれども、生きがい、やりがいがあるという形になる。

横浜を象徴する臨海部を花で飾るときに、一部でもそのような花植えをするときだとか、花摘みをするときとか、市民に積極的にPRして、ボランティアを募集していただいて、市民みんなで育てている花ですということで外国の方、他都市の方にもアピールできるといいなと思いました。

横浜公園も間もなくチューリップが咲きますが、市民が植えたチューリップということで好評を得ていますので、ノウハウは緑の協会さんが持っているでしょうし、そういうものも利用されるといいかと思います。

もう一つ、校庭の芝生化という形で日産スタジアムのエキスパートを呼んできて、芝生を管理しているけれども、ワールドカップをやるわけではないのだから、各小中学校の場合は今ある土の校庭ではなくて、寝転がれる芝生であれば良く、時には草でもいいと思うのです。だから、踏まれても耐えられるような強い種類で、草刈りが少なくてもいいやり方とか、工夫することも1つの方法ではないかと思います。

現地調査で戸塚の保育園に見学に行きましたね。その際に、やはり芝刈りを何回もやらなくてはならない、病害虫にも気をつけなくてはならないと、維持管理に手間がかかるという意見も聞いています。芝生は気持ちがいいですが、もう少しみんなが手軽にできるような維持管理ができる形をとっていったらいいと思います。

芝生だけに特化しないで、花壇やビオトープ整備にも対象を広げたことは良いことだと私も思います。ビオトープなどは、今、生物多様性保全で注目されているところですから、市内各地でオタマジャクシだとか、メダカだとか、ホタルだとか、見られるようになればいいかなと思いますね。

	<p>(事務局) 芝生に関して、補足させていただきますが、確かにグリーンキーパーさんにも活動していただいているのですが、学校は学校なりの関与の仕方があるので、保育園もそうですが、レベルの高いものではなくていいという話でやっていただいています。</p> <p>(池田委員) そのこのところを強調しないと、資料やパンフレットの写真を見たらみんなスタジアムの芝生をイメージします。 つくる時には助成してもらおうとしても、これを維持するには何十万もかかる、それを延々エンドレスでやってくださいと言われていたら、みんな逃げますよ。</p> <p>(事務局) 芝生は使っていただくことを前提にして、どうすれば芝生が長持ちするかを考え、なるべくティフトンという、生育が早くて補修が非常に簡単な種類を推奨しています。利用についても養生中に入れられない期間が長くなならないような維持方法についてアドバイスをさせていただいていますので、そのような対応で芝生化したところを喜んでいただければと思っております。 オーバーユースになってしまうところには芝生が根づかないということがあるので、パンフレットの小山台は全面芝生なのですが、基本的には部分芝生でやっていただいています。メイン動線上や、遊具周りは避けてもらって、比較的緩やかな利用をしていただくところを芝生化していくという形で進めているところですよ。</p> <p>(池田委員) また、過去に芝生化したところのその後の悩みなどの後追い調査をされた方がいいと思いますね。それを今度、次に生かしていくような形にされるといいのではないかと思います。</p> <p>(事務局) それについては講習会で芝生管理に携わっていらっしゃる方を呼んで、いろいろな悩みをお話しいただいて、情報なども提供させていただくようにしていますので、そういったものをノウハウとして蓄積していったら、またいいアドバイスができればと思います。</p> <p>(若林委員) 維持管理は26年度から助成を始めたのですね。</p> <p>(事務局) そうです。</p> <p>(池田委員) それはいいことですね。</p> <p>(若林委員) いいことなのですけども、それほど大きな額ではないので、これまで投資したもので維持できるのかどうか。</p> <p>(池邊部会長) 上限5万円ですからね。</p> <p>(池田委員) こちらは助成した助成したと言っているけれども、少額なので、焼け石に水で、大きなことを言われては困るよと言われないように適切なフォローをしてください。</p> <p>(若林委員) 都心臨海部の緑化をぜひ進めていただきたいと思います。 以前に調査した結果を見ると、海外から来た方からは、みなとみらいは緑が少ないと言われていました。木陰がないイメージです。 都市緑花フェアは再来年ですか。みなとみらいは夜景がきれいで観光資源になっていますが、これからは昼間の花とか緑が観光資源になるということにつながると思います。 あと、質問なのですけども、地域緑のまちづくりの助成内容が3年ということですが、4年目以降はどうなるのですか。</p> <p>(事務局) 基本的には3年で終わりです。審査をするときに、3年間限定なので継続性がある提案をしてくださいという説明をしています。単純に整備するだけではなくて、助成がなくなった後もきちんと継続できるように提案して出していただきたいと思います。ことをお願いしていただいて、その視点で審査させていただきます。</p> <p>(若林委員) そこがちょっと気になりました。</p>
--	--

(池邊部会長) 自立ということがなかなか難しい。たくさんメニューをやっ
てしまうと、助成がなくなってしまったときにどうしようとい
う話になってしまうかもしれません。また、メンバーの方も高
齢の方が多くやられているので、メンバーの更新がうまく進
んでいくといいかなと思います。

(池田委員) 緑の協会では、緑の推進団体が花壇をつくるときの援助をし
ています。3年間継続するので、最初はみんなで補助をもらえ
るからといって活動していたのだけれども、だんだん高齢化に
なっていくとやる人がいなくなって、何もしなくなるというこ
とは多々見られる。それをどうしたら再生するかということで、
緑のリーダーというものをつくって、地域みんなで面倒を見よ
うかという形にしています。

あともう一つ、緑の推進団体中心で今、盛り上がりつつある
のが、港北区などで先行してやっているのですけれども、オー
プンガーデンという制度をやっているのです。この4月、5月
にもやるのですが、今まで2回は港北区だけだったのだけれど
も、今年は横浜オープンガーデンということで、青葉区や、他
の地区の見せられるところも結ぶ形でやっているのです。

先ほど紹介いただいた地域緑のまちづくりの柿の木台地区な
ども、地区内だけにとどまらずに、「ここで活動しているので見
に来てください」ということを外に向けても発信すると、見に
来てもらえ、きれいですねとみんなに言われる。全然知らない
方に言われると嬉しいですし、また、あなたの町はきれいな
のですねと言われて、そこに住んでいる人も振り返って気付い
てくれるということもあります。そのようなオープンガーデンと
いう形を、桜の花が咲くときだかと、モミジがきれいなときと
か、バラ、アジサイが咲いたときとか、季節ごとにそれぞれの
場所の特色に応じて来ていただけるような発信もいいかもしれ
ない。せっかくいろいろ活動されているのですから。

(若林委員) つながるといいですね。

(池田委員) まず点でやって、それを線で結んで面という形につなげる
ことができれば、他がきれいになっている様子を見れば、うち
でもやってみようかという話にもなります。

(長瀬委員) 今、ちょうど、市民推進会議の広報部会で編集している「み
どりアップQ」の中でも、地域緑のまちづくりを取り上げて、
皆さんに発信していきたいという案も出ていたので、これも活
用していけたらいいかなと思いました。

(池邊部会長) そうですね。取材にいらっしゃるのですか。

(長瀬委員) 機会を作っていただければ行きたいです。

他の団体の活動を見ると刺激にも参考にもなります。私など
はいろいろ関心があってもわからないことが多いので、地域緑
のまちづくり事業で、最初の段階で一緒に考えてくださるアド
バイザーがいらっしゃるということがとても喜ばしい事と思
います。一年草にはない植物の良さだったり、生物多様性を入れ
ていきたいというときに、アドバイスいただきたいし、どうし
ても地域の者だけだと、なかなかまとまらないことがあるので、
アドバイザーの存在はありがたいですね。

今までの役所のイメージは、こういうやり方をしてください
という枠があるように思ったのですが、これは自由度が高くて
入りやすいかなという感想です。

(池田委員) 今、緑の協会では、「よこはま花と緑の推進リーダー」という
制度で毎年20人ぐらい養成しています。今、それが140人ぐら
いになっているので、そういう方が各区に大体4～5人、10人
いる区もあります。そういう人たちも同じ緑とか花の専門で知識
がある方ですから、やり方がわからないなどの相談があれば活

用していただければ良いと思います。これまでは、土木事務所が中心になっている公園の公園愛護団体とかは公園だけで、緑の推進団体のほうは民有地を中心にしてやるという形でしたが、横浜市の中の組織なので、そういう垣根をどんどん越えて活用していったらいいと思います。

活躍の場がないとか言っている緑の推進リーダーの方がいるのだけれども、地域緑のまちづくりという事業をやっているということを知らなかつたりするでしょうから。

(池邊部会長) そういった意味では、派遣制度みたいなものがあるといいですね。

先日、神奈川県表彰制度に携わらせていただいたのですが、その中で、大磯のオープンガーデンが表彰を受けて、彼女らが自分たちでつくった小さいパンフレットがあるのですが、副賞をもらったから、これできれいなパンフレットをつくって、もっとみんなに来てもらえるようにしたいと言っていました。来た方につくり方を披露するのが楽しいというお話もあったので、つくるということによって交流が生まれていくということがありますね。

(池田委員) イギリスのチェルシーのように、海外から横浜に来るぐらいになればいいのですね。夢は大きく持ったほうがいいかと思うのです。

せっかく世界に誇るハマミライというバラもつくったことだし。サカタのタネさんもいるのだし。頑張ってもらって。

(池邊部会長) そうですね。サカタのタネさんに。

他に何かございますか。よろしいですか。

それでは、最後に、柱の3「市民が実感できる緑をつくる」全体について、どのような評価、あるいは御意見があるか。

今まででも随分ヒントになる御意見をいただいたと思うのですが、それでも、全体を通じてもう少し大きな話でもいいですし、まさに最後の緑の推進リーダーの派遣の話や、実際に緑をつくる方に市民ボランティアが参加するというのも施策全体を通じての御提案だと思いますが、他にいかがですか。

割合などの部分にはまだまだ改善の余地がありますが、結構至れり尽くせりの、本当にきめの細かい制度になってきていると思います。

(長瀬委員) ぜひ触れ合える緑ということを考えていただきたいです。子供たちは触れ合えてこそ植物との関係性をつくっていけるし、大切にしていけると思います。見るだけではなく触れることもできるような緑という視点も取り入れていただきたいです。つくることも大事で、つくらなければ触れ合えないと思うのですが、どうやったら触れ合っていけるかなということも考えていきたいと思っています。

(池邊部会長) それはとても大事なことです。群馬に昆虫の森という所があるので、その館長さんの話の中で、昆虫をとったらいけない、見るだけ、昆虫採集をしてはいけないと言われるようになってから、子供たちは昆虫に興味をなくしてしまったという話があります。植物はきれいだというのもありますが、触れ合えるかどうかということは大事な観点です。私が住んでいるところの近くで官舎だったところが公園になったのですが、サクラソウとシロツメグサが一面にあるのです。サクラソウだけだったらきれいなだけなのですが、シロツメグサがあると、そこに保育園児が園外保育の時に来て裸足で歩き、1人1本ねと言われながら、シロツメグサを摘むという行為をしています。私たちなどは摘んでレイなどもつくったりしましたが、今の子供たちはそういうことをやったことがないので、

	<p>そういう機会をつくれるといいかもしれませんね。</p> <p>(池田委員) 横浜のこども植物園では、学校では余り教えない、葉っぱを使った遊びや、ドングリでやじろべえをつくったり、草笛だとか、触れ合えるイベントがあるのですが、いかんせん場所が悪いですね。</p> <p>また、触れ合える緑というところで、安心安全ではないですが、全く農薬を使っただけとはいえないとは言わないけれども、少し減農薬栽培をするとか、そのようなことも大切なことなのではないかと思います。</p> <p>今、横浜は毛虫が出て農薬をまいていなかったのでしょうか。</p> <p>(事務局) 基本的に薬剤散布はしません。</p> <p>(池田委員) そういう形になっているのだけれども、それを市民が知っているかどうかですね。チャドクガが出たときはやらないとまずいなと思うのですが。</p> <p>(池邊部会長) それはそうですね。危ないです。</p> <p>(池田委員) 花と緑に関してそこにまで横浜市は気遣っているということももっとアピールしたほうが良いと思う。</p> <p>逆に、先ほど言ったチャドクガとかイラガとか、すごく悪い毛虫もいっぱいいるから、そういうようなものはみんなで早目に退治しましょうとか、そういう知識も要るかと思います。</p> <p>(池邊部会長) また、こちらはまさに京浜工業地帯ですね。割とビオトープなどの、生物多様性の活動に特化しているようですが、この前、地方自治体の事例で、河川敷の余っている荒地のようなところに、花壇の花ではなく、いわゆる雑草のような摘める植物をたくさん植えて、そんなに手をかけないで荒地を美しくするという活動がありました。例えば企業のCSRなどで、横浜市の許可を得て敷地外に違う場所をお借りして、植物を植えて、それを子供たちがとったり、あるいはそこで遊んだりということができると、企業にとっても地域貢献ができて、なおかつ荒地もきれいになるという利点があるかなと思います。</p> <p>(若林委員) 企業から見れば、CSRで河川敷の緑化に貢献した分の何らかの見返り、緑地の義務化を多少緩和してもらおうとか、そういう話があるとウエルカムですね。</p> <p>(池邊部会長) まさにそうですね。そういう還元、戻りがあると話が進みやすいです。</p> <p>(池田委員) それこそ日産スタジアムみたいに冠に企業名をつけるとか、河川敷の一部で〇〇軒とか看板を付けて、シューマイ花壇はいいねとか。</p> <p>(池邊部会長) そのようになると本当に楽しいですね。やはり緑はきれいだけでなく楽しいという気持ちがあるのが大事だと思います。企業の方もお金を使うだけではなく、達成感というか、市民の方の満足を実感するという部分も大事ですね。</p> <p>他にございますか。全体はよろしいですか。</p> <p>それでは柱の3「市民が実感できる緑をつくる」の施策提案については以上としたいと思います。</p> <p>それでは、その他でございますけれども、今日「緑をつくる」部会は初めてということでございますが、何か皆さんから御質問や御意見は何かございますか。</p> <p>それでは事務局に議事をお返しします。</p> <p>(事務局) (事務連絡)</p> <p>事務局からの連絡は以上です。</p> <p>(池邊部会長) 全体を通じて、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、次回は新年度になりますので、皆さま、また、ぜひともよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、今日は閉会いたします。どうもありがとうございます。</p>
--	--

	ました。 (閉会)
資 料 ・ 特記事項	<配布資料> 資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議 平成26 年度報告書(案)【抜粋】 資料2 横浜みどりアップ計画 (計画期間：平成26-30 年度) 平成26年度事業目標及び進捗状況〔平成27 年1月末時点〕 <参考資料> 参考資料 一式